

## ○マイトマイシン注用 [注]

【重要度】★ 【一般製剤名】マイトマイシンC (U) mitomycin C 【分類】抗悪性腫瘍剤

【単位】○2mg・▼10mg/V

【常用量】2～30mg/日 [詳細は添付文書参照]

【用法】静注, 膀胱内注入■pHの低い注射剤との配合は避ける

【透析患者への投与方法】腎機能正常者の75%に減量, 投与間隔は腎機能正常者と同じ(3,4,6,10)

【保存期CKD患者への投与方法】Ccr 10mL/min以上: 常用量, Ccr 10mL/min未満: 75%に減量(3,10,12)

【その他の報告】減量の必要なし (Verweij J, et al: J Cancer Res Clin Oncol 113: 91-4, 1987)

【特徴】アルキル化剤と同様の作用機序でDNAの複製を障害する抗腫瘍性抗生物質。活性代謝物がDNAへの架橋形成, アルキル化, フリーラジカルによるDNA鎖切断を介して抗腫瘍効果を示すと考えられている。

【主な副作用・毒性】骨髄障害, HUS, 急性腎不全, 肺障害, 肝障害, ショック, アナフィラキシー, 消化器症状, 脱毛, 血尿, 膀胱炎, 発熱など

【安全性に関する情報】血管外漏出により, 注射部立に硬結, 壊死(1)

【モニターすべき項目】BUN, 血清クレアチニン濃度, CBC, 末梢血液像による変形赤血球 (fragmented RBC) の観察

【吸収】個人差が大きい(11) 膀胱内注入での血中吸収率1%(1)

【代謝】酵素還元されて活性代謝物となり抗腫瘍効果を発揮する(1) 複数の活性代謝物が推定されているが, これらの定量的又は抗腫瘍性の比較検討はされていない(1)

【排泄】尿中未変化体排泄率10%(U) 15～30%(4,10) 1～19%(6) 4.3～8.8% [iv, 4hrまで](1) 8.1% [iv, 24hrまで] (van Hazel GA, et al: Cancer Treat Rep 67: 805-10,1983) 少量が胆汁および糞便中 (U) 糞便中排泄(4)

【CL】332.9mL/min/m<sup>2</sup> (van Hazel GA, et al: Cancer Treat Rep 67: 805-10,1983) 4.94～7.27mL/min/kg (1)

【t<sub>1/2</sub>】α相5～15min, β相約50min (U) α相0.1hr, β相0.9hr (6) α相5min [2.9-12.4], β相54min [26-89] (11) α相8.2min, β相52min (van Hazel GA, et al: Cancer Treat Rep 67: 805-10, 1983) 0.5～1hr (12)

【蛋白結合率】8.4～12.8%, 血漿濃度の上昇とともに蛋白結合率は低下する(1)

【Vd】0.5L/kg (12) V1: 10L/man, V2: 20～30L/man (1) 0.5～1.0L/kg (6) 25L/man (11) 血液膜関門は通過しない(U)

【MW】334.33

【透析性】おそらく除去される (Onkologie 13: 289-94,1990) 除去率は不明であるが, 透析膜は通過する(1)

【TDMのポイント】一般的にTDMは実施されていない【O/W係数】LogP=-0.53 [1-オクタノール/buffer, pH7.4] (1) 【pKa】3.2【薬物動態】TDMの有用性はない (Erllichman C, et al: Can J Physiol Pharmacol 65: 407-11, 1987)

【相互作用】ピンカアルカロイド: 息切れ, 気管支痙攣(1)

【効果発現時間】in vitro では30分以内(1)

【更新日】20220329

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。